

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒を育む学校 ・豊かな心を育む学校 ・地域が誇れる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって自ら学ぶ生徒 ・規範意識をもって互いに協力しあう生徒 ・健康を意識し、体力向上に努める生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもって実践力、指導力を高める教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・生徒、保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

生徒たちは日々学習、行事、委員会活動、部活動に精力的に励み、概ね落ち着いた環境のもとで生活している。前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着について。日ごろの学習指導、学力向上策により区学力調査結果では目標値に達した。しかし、下級生を中心に不安材料がみられるのでその改善に全校体制で取り組む必要がある。
- ② 全体的には落ち着いた学校環境であるが、集団生活に十分適応できない生徒や規範意識の低い生徒もいる。豊かな心の育成や適切な行動が身に付く指導を通じてそれらの状況を改善していく。また、不登校対策については、一人ひとりの状況把握と今後の対策を組織的に検討して進める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン（授業時間の確保と基礎学力の定着、ICTの活用推進）			○	○	○

2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○
---	--------------	---	---	---	---	---

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（学習時間の確保と基礎学力の定着、ICTの活用推進）							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)	実施結果 (正答率・通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
区学力調査通過率の引き上げ		年度末到達度確認テスト正答率 63.0% 令和3年度区調査通過率 64.5%	年度末到達度確認テスト正答率 59.2%	・年度末確認テストにおいて達成基準を下回った。今後、基礎学力補充の取組を進める。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。			△		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	標準の授業時数の確保	全教科	年間	・水曜日の6校時授業 ・放課後学力補充の授業実施(25分)	計画と実施	標準の年間時数確保(1015時間)	・水曜日6校時授業は5時間実施。 ・放課後学力補充の授業実施(25分)は40回実施。 ・標準時数は確保。	学校独自の取組で30時間分増加させたが、これくらいやらないと今年度は厳しかった。	◎
2 継続	タブレットを活用した授業推進	全教科	年間	授業内容に即して効果的な場面でのタブレットの活用(昨年度とは異なる活用方法)	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施(100%)	・年2回の授業観察では全ての教員がタブレットを活用。 ・生徒の授業診断ではICT活用ができていない授業は平均で76%。教科によって大きく異なった。	・今後は生徒一人一台のタブレット使用の中で双方向の活用を図ることが目標になる。 ・ICT活用による学習効果を測定することも必要になる。	○
3 継続	指導案に基づく授業観察	全教科	年2回	足立スタンダード(AS)を意識した指導案の作成と授業実施	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施(100%)	・指導案に基づく授業観察は2回とも100%実施できた。 ・ASが目指す「分かる」「楽しい」などの状況は右の通り。	生徒の授業診断結果 ・「分かりやすい」88% ・「楽しい」87% ・「目標が明確」88%	○

4 継続	学習コンテスト (漢字・計算・スペリング)	全学年	年3回	【指導体制】全教員 【取り組みのねらい・内容】 国語・数学・英語の基礎的な内容の定着を図ると同時に、生徒に達成感を持たせ、自己肯定感を高める。プレテストで不合格生徒は学年教員によるグループ指導を行う。	プレテスト 本テストの実施	平均合格率 80%	・漢字コンテストは1年86%、2年83%、3年91%、全校87%の合格率で基準達成。 ・計算コンテストは、1年55%、2年58%、3年69%、全校61%の合格率で基準不達成。	・毎年、1年の学習習慣づくり、学習意欲の向上、学習面での競い合いが必要。 ・計算コンテスト結果は再度学校挙げての取組の必要がある。	△
---------	--------------------------	-----	-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	---

重点的な取組事項－2		豊かな心をもつ生徒の育成				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
豊かな人間性と社会性をもち充実した学校生活を送る生徒の高い割合		「学習や生活に関する調査」で該当項目の肯定的評価を以下の規準で判断 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	「生徒による学校生活評価」(12月実施)で学習、生活に関する10項目の自己評価の平均は88%。従って「B」判断	豊かな人間性や学校生活に関する充実感に比べて学習面での充実度が低くなっている。	○	
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度	
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35回以上 B=30～34回 C=30回未満 調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	・全教員のローテーションによる道徳授業の実践 ・情操を育む朝のクラシック音楽の放送 ・いじめ撲滅週間の実施 ・人権学習週間の実施	・道徳授業は38時間実施。「A」判断。 ・道徳心の育成については、「生徒の学校生活調査」に関連項目(「いじめなどせずに思いやりの気持ちをもっている」等)で肯定的評価が98%で「A」判断。	・いじめや生活指導の件数は昨年度より減少している。 ・学校生活調査でも生徒自身の良い評価が目立っている。 ・「～をしない」ではなく「～をする生徒」等積極的な行動の育成。	◎	
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	・生徒のやる気を引き出す足立スタンダードに基づく授業 ・学習課題の適切な管理	・「授業中は意欲的にやっている」85%で「A」判断。 ・「家庭で学習習慣は身に付いている」71%で「B」判断。 ・「学習に対する全般的な意欲あり」83%で「A」判断。	・「授業中の学習意欲」は学年が上がるごとに高まる。 ・「家庭学習習慣」は他の項目に比べて否定的な回答が目につく。	○	

読書活動の推進	図書館貸出図書数の前年度比 A=10%以上増加 B=10%未満増加 C=減少	・読書の励行と図書室の利用促進 ・図書委員会の活動活性化	前年度は 1203 冊、今年度は 1355 冊で 11%増加。従って、「A」判断。	調べ学習での貸し出しも含めて、着実に増加している。	◎
体験・交流活動および継続的なキャリア教育	ボランティア生徒数 A=100 名以上 B=80~100 名 C=79 名以下 体験活動の実施 B=した C=しない	・地域等での異年齢交流ボランティア活動 ・芸術体験活動の実施 ・職場体験及び上級学校訪問等	・地域のボランティア活動は新型コロナウイルス感染症拡大のため場面が設定されなかったため、評価できず。 ・体験活動も同様に設定できなかったため、評価外。	次年度は通常の活動ができればそれに積極的に参加させたり、取り組んでいきたい。	—

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】・国語、数学、英語のいずれもほぼ全ての観点・領域で区の平均値を下回っている。

・国語では特に「読む力」、「言語についての知識 理解技能」に課題がある。また数学では特に2年の「方程式」、「比例と反比例」、「資料の活用」が定着していない生徒が多い。英語では文章の要点をつかんだり、リスニングでまとまった内容を聞いて理解すること等に課題がある。

【対策】・国語では言語事項や文章、文法について授業中の指導の工夫や小テスト、復習課題などを組み合わせて指導していく。定着度確認テストでは通過率が伸び悩んだが、目標値に近い生徒が非常に多く、復習でさらに詰めていく。

・数学では授業内容を細かく確認テストで点検したり、1年間のまとまった内容の復習を分割して順次行い小テストで定着を図っていく。定着度確認テストではその成果が出ていた。

・英語は基本文のディクテーション、Show & Tell のスピーチ活動などを繰り返し、4技能の育成を図っていく。定着度はまだ不十分である。

イ 健全育成

・学校行事をはじめ諸活動が思うようにできなかったが、そうした環境の中でも生徒が落ち着いた生活を送ることができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

・保護者や地域の期待に応える学校づくりが大きな目標です。礼儀正しい生徒。素直で優しく、適切な判断ができる生徒。いじめなどをしないで友達や仲間を大切にする生徒。そして、一生懸命勉強をする生徒をこれからも育てていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、教育活動が大きく制約された1年で、とりわけ学校行事が縮小、中止になったことは生徒の成長に大きな影響を与えたが、その中でもできることを精一杯やってきた。次年度も厳しい状況が予想されるが、少しでも生徒が成長できるように全力を尽くしていきたい。